慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	スペイン植民地文書における単純過去と現在完了： 16世紀ヌエバ・エスパーニャの書簡の場合
Sub Title	
Author	鈴木, 恵美子(Suzuki, Emiko)
Publisher	慶應義塾大学法学部
Publication year	2008
Jtitle	慶應の教養学： 慶應義塾創立一五〇年記念法学部論文集 (2008.) ,p.313- 336
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Book
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=BA88455348-00000012-0313

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

スペイン植民地文書における単純過去と現在完了

――16 世紀ヌエバ・エスパーニャの書簡の場合――[1]

鈴木　恵美子

Ⅰ　目的
Ⅱ　書簡のタイプと単純過去・現在完了の頻度
Ⅲ　書簡に特徴的な時制使用
Ⅳ　現在完了の使用状況
Ⅴ　本稿での調査結果――現在完了の用法別頻度
Ⅵ　結び

Ⅰ　目的

スペインの現代スペイン語において、直説法単純過去（例 canté「私は歌った」）と現在完了（haber の直説法現在＋過去分詞。例 he cantado「私は歌った」）は意味上区別され、前者は発話時と断絶した過去、後者は発話時と関連のある「以前の事象」を表す。

一方、現代のイスパノアメリカの多くの地域のスペイン語では、スペインのスペイン語と異なり、単純過去は、発話時と断絶した過去のみならず、直前に起こった事象やいわゆる「拡張された現在（presente ampliado）」(2) における事象も表すことができる。他方、現在完了は発話時まで何らかの形で継続・反復する事象に使用がほぼ限定されている。

中世スペイン語では、ラテン語の完了に起源をもつ単純過去の意味領域は現代語よりも広く、「拡張された現在」に起こった出来事も表す場合があった。一方、現在完了は、haber が起源的にもっていた所有の意味を残し「所有の結果状態（…を～された状態でもつ）」を表していた。しかし、やがて現在まで継続・反復している出来事も表すようになり、さらには終わった出来事でも現在と関連があるとみなされれば用いられるようになる（Alarcos 1980: 36－46）。

こうした歴史と、ラテンアメリカの多くの地域にみられる 2 形式の区別を考え合わせると、一見、単純過去の古い機能がラテンアメリカのスペイン語では保持されているようにみえる。拙稿（2004）では、ラテンアメリカのスペイン語における 2 時制形式は古い機能分担を保っているのかどうかを検証するため、スペイン植民地時代におけるアメリカ大陸の数都市の様々なジャンルの文書（書簡、裁判記録、報告書など）を対象に使用状況の推移を観察した。その結果、全体的な傾向はつかめたものの、地域や文書の種類ごとの考察は十分ではなかった。そこで、本稿では対象をヌエバ・エスパーニャ（現メキシコ）の初期（16 世紀）の書簡に限定し、新たなデータを加えて使用状況を観察する。

Ⅱ　書簡のタイプと単純過去・現在完了の頻度

今回の調査では、宛て先によって文書を2つに分類した。親族などに宛てた私的書簡（23通）と王や公的機関に宛てた公的書簡（8通）である（P335、336資料1、2参照）。書簡という性質上、宛て先にかかわらず改まった書き言葉が用いられているものの、宛て先によって内容も文体もかなり異なることが分かった。

親族に宛てた私的書簡については、スペインにいる親族をメキシコに呼び寄せようとする目的のものが多い。こうした内容の手紙は、DLNE38、41、43、44など12通ある[(3)]。書き手がいかに親族との再会を望んでいるかを時として感情的に述べている。そのほか、親族の身を案ずる手紙、近況報告、遺産相続の仲裁を求める手紙など内容は様々である。これらは公的な手紙に比べて、感情表現、命令や願望などの直接的な表現が多いのが特徴である。

一方、王などに宛てた公的書簡では、より改まった文体と丁寧で婉曲な表現が用いられている。内容としては報告書的なものが多く、現地の状況が客観的に淡々と報告されている。また、現状を報告した上で嘆願などが行われている場合もある。一通の分量が私的書簡よりかなり多いことも特徴と言える。

最後に単純過去と現在完了の割合を確認しておこう（P335、336資料1、2参照）。私的書簡では単純過去63.3%、現在完了36.7%、公的書簡では単純過去72.1%、現在完了27.9%となっており、公的書簡では単純過去の割合が9%ほど多くなっている。

Ⅲ　書簡に特徴的な時制使用

Ⅲ. 1.　書き出しの時制

手紙の書き出しでは、以前に書いたり受け取ったりした手紙に言及されることが多い。異なる文書であっても類似した環境での時制使用を見ることができる。今回は、宛て名のあとの一文に含まれる時制形式に注目した。手紙の授受や伝達を表す動詞（escribir「書く」、enviar「送る」、dar［hacer］relación

「話す」、dar cuenta「説明する」、recibir「受けとる」、tener respuesta「返事をもらう」など）の時制を調べた。総数では現在形が最も多く（53 例）、その次に単純過去（36 例）、現在完了（20 例）が続いている。

このうち単純過去と現在完了の用例に注目すると、ほとんどの場合 2 形式の間には明瞭な使い分けが認められる。

① 単純過去

単純過去の場合、一回きりの行為を表している。また、手紙を送った日付や状況（配達人、配達船、発信地）が明示され、行為の特定性が高いことが特徴である。

(1)の enbié「私は送った」については、特定の配達人、時間が明示されている。また screvi「私は書いた」は直接補語相当の節（todo lo que a la sazon me ocurria）を伴い、書いた内容が示されている。

(2)では resçibi「私は受け取った」は時間表現（Esta noche）と共起している上、日付つきの特定の手紙を直接補語として伴っている。

(3)の rresebi「私は受け取った」も直接補語が一通の手紙であり、さらにそれを配達した船団にも言及されている。

以上、(1)から(3)はいずれも特定性の高い一回きりの過去の行為を表していると言える。

(1) Con Lope de Samaniego que de aquj *enbié* treze meses ha a dar cuenta y relaçion a vuestra magestad de estos sus reynos y señorios, *screvi* a vuestra çesarea magestad todo lo que a la sazon me ocurria, (DLNE 1: 23)[4]

「こちらの王国と領地について陛下にご報告するため、こちらから 13 か月前に派遣したローペ・デ・サマニエゴを介して、私は陛下にその当時私に起こっていたことを全てお書きしました。」

(2) Esta noche *resçibi* una carta vuestra de qujnze de agosto. ＊(DLNE 5: 63)

「昨晩、私は 8 月 15 日付のあなたの手紙を受け取りました。」

(3) Una suya *rresebi* en la otra flota pasada, que en ésta no e tenido ventura de rresebir ninguna, ＊(DLNE 40: 170)

「あなたの手紙を一通、先の船団で受け取りました。今回の便では一通も受けとる幸運に恵まれていません。」

② 現在完了

一方、現在完了の用例では、時間限定がない場合、複数回の行為を表している場合、否定状態の継続を表している場合が多い。

(4)は複数回の例である。このことは Por otras cartas「別の何通かの手紙によって」という語句から明らかである。

(5)についても、e reçebido の直接補語は Algunas cartas「何通かの手紙」であり、「受け取った」のが複数回であることが分かる。

(6)は、(3)の単純過去の例に後続する否定文である。この現在完了は否定状態が現在まで継続していることを述べており、(3)の単純過去との区別は明瞭である。

(7)も(6)と同様、否定状態の継続を表している。

(8)の現在完了は、別の手紙で書いたこと、つまり完結したことを述べている。(4)～(6)とは異質である。むしろ上述の単純過去の例に近い。現在完了が選ばれた理由としては、同封した手紙ということで心理的に近い過去の行為であるためと考えられる。

(4) Por otras cartas *e hecho relaçion* a vuestra sacra magestad y a su muy alto Consejo de las cosas acaesçidas en esta su Nueva España (...) (DLNE 2: 48)

「私は別の何通かの手紙によって、陛下とインディアス枢機会議にこのヌエバ・エスパーニャで起こった出来事をご報告しました。」

(5) Algunas cartas *e reçebido* vuestras y de my hija, con que *e reçebjdo* mucho contentamjento y consuelo. ＊(DLNE 32: 152)

「あなたと私の娘の手紙を何通か受け取り、それで私は大変満足し、慰められました。」

(6) (=3) Una suya rresebi en la otra flota pasada, que en ésta no *e tenido* ventura de rresebir ninguna, ＊(DLNE 40: 170)

(7) En todas las armadas siempre tengo cuydado de escrevjros y daros avjso de lo que

por aca pasa, y nunca *e tenido* respuesta alguna. ＊（DLNE 49: 189）

「全ての艦隊が出る度にいつもあなたに手紙を書き、こちらで起こっていることを知らせるように気をつけてきましたが、これまで一通も返事をもらっていません。」

(8) Por la carta que va con ésta *he escrito* tan largo a vs. mercedes,（DLNE 4: 59）

「これに同封した手紙によって、あなたがたに十分お書きしました。」

Ⅲ. 2. 伝達動詞の時制

次に、Ⅲ. 1. とも関連するが、「既に書いたように」のように既出の内容を喚起する伝達動詞に注目したい。これには、a）過去に出した別の書簡で述べたことに言及する場合と、b）今書いている書簡の中で述べたことに言及する場合がある。以下では、decir「言う」、escribir「書く」、dar relación, dar cuenta de「報告（説明）する」などを中心に、単純過去と現在完了の使用傾向[5] を確認する。

① 単純過去

単純過去の場合、過去に出した書簡で述べたことに言及している例しかみられない。またⅢ. 1. でも確認したように、配達人、配達船、日付が明示されている場合が多い。同じ書簡の中で述べたことに言及する例はなかった。

(9) La de arriba es copia de otra que a v. m. *escrivi* en el navjo de avjso, ＊（DLNE 33: 156）

「上の手紙は通達船であなたに書いた別の手紙を写したものです。」

(10) En diez y siete de agosto d'este año *dí relación* a Vuestra Alteza de lo tocante a la visita que avía hecho en algunos pueblos de la provinçia de Pánuco y de otras,（EM N: 475）

「Pánuco などのプロビンシアの村々で彼がおこなった視察については今年の8月17日、殿下にご報告しました。」

② 現在完了

現在完了の場合、a) 過去に出した別の書簡で述べたことに言及している例、b) 今書いている書簡の中で述べたことに言及している例ともにみられる。

a) の場合、複数の手紙で書いたことを述べていることが多い（11, 12）。もっとも、一回の行為の場合もある。例えば(13)では一通の手紙に言及しており、書いた内容も直接補語相当の節（como 以下）で明示されている。

b) の場合の現在完了は公的書簡に目立つ（14, 15）。公的文書には一通の分量が大きい報告書的書簡が多い。そのため、前述したことを折にふれ読み手に喚起する必要があり、伝達動詞が頻繁に使われる。(14)は直前で述べたことを指し、(15)は同じ文書の離れた箇所で述べたこと指している。いずれも一回の行為を表している。

(11) Muy largo os *e escrito* dos vezes de las cosas de acá, ＊(DHLHA MX2: 83)

「こちらの状況についてはあなたに長い手紙を 2 回書きました。」

(12) porque es ansí que yo e visitado algunos pueblos y provinçias que están en cabeça de Su Magestad, como por otras *e dado* relaçión a Vuestra Alteza, (EM N: 487)

「なぜなら、私は陛下のいくつかの村とプロビンシアを訪ねたからでございまして、それは殿下に別の数通の手紙でご報告した通りです。」

(13) Ya os *e escrito* como no e ido a la tierra, ni e visto a mi madre ni a la vuestra, pero muchas vezes e sabido que están buenas, ＊(DHLHA MX2: 86)

「私がその土地に行っていないこと、私の母にもあなたの母にもずっと会っていないこと、とはいえ彼女たちが元気であると何度も聞いていることはすでにあなたに書きました。」

(14) No queda sino hecharnos en presiones, que para todo estamos aparejados por la libertad de los quatro oydores. Ni *he dicho* esto por las merçedes que nos an hecho ni harán, (DLNE 11: 93)

「もう私たちが牢屋に入る以外にありません。私たちは 4 人の聴訴官の釈放のためならどんなことでもするつもりです。私は彼らが今まで私たちにくださり、これからくださるであろう恩恵のために今のことを申したのではありません。」

（15） y ansí lo an hecho y a quedado aquel reyno desolado de la manera que a Vuestra Alteza *e dado relación*,（EM N: 491）

「彼らはそのようにふるまい、ゆえにあの王国は、殿下にご説明したような形で荒廃してしまったのです。」

Ⅳ　現在完了の使用状況

以上の観察によると、単純過去と現在完了は多くの場合明瞭に使い分けられている。しかしながら、現在完了の用例の中には、現代メキシコスペイン語について言われている傾向とは異なるものもある。それは(8) (13) (14) (15)のような、一回性の終わった行為に言及している例である。本章では、現代のメキシコスペイン語における現在完了の用法をあらためて確認し、当時のスペイン語との違いを考察する。

Ⅳ. 1.　現代メキシコスペイン語

Lope Blanch（1961: 374-385）によると、メキシコのスペイン語の単純過去と現在完了は基本的にはアスペクトによって対立している。単純過去は“perfectivo（完了的）”、“puntual（点的）”という特徴、現在完了は“imperfectivo（未完了的）”、“durativo（継続的）”、“reiterativo（反復的）”という特徴をもつとされる（表1）。また、現在完了の“perfectivo（完了的）”の価値は二次的なものに過ぎず、感嘆文など感情的卓越を表す場合にしか現れないと述べている。

一方、スペインのスペイン語の場合、2形式の差異は時制的なものとされる。過去の事象が「現在」と関係を保っていれば現在完了が、そうした関係がなければ単純過去が用いられる。よって、終わった出来事であっても現在とのつながりが感じられれば現在完了が用いられる点が半島スペイン語の特徴と言える。

以上を踏まえ、Lope Blanch（ibid.: 383-384）はメキシコの現代スペイン語の現在完了の特徴として次の2点をあげている。

① メキシコのスペイン語では「拡張された現在の完了」が現在完了によってではなく、単純過去で表される（例：Llegó hace un momento.「彼は少

（表 1）

	valores aspectuales	valor temporal
Pretérito simple 単純過去	a) perfectivo	pasado
	b) puntual	
Pretérito compuesto 現在完了	a) durativo	aún presente
	b) reiterativo	

Lope Blanch（ibid.: 376）

し前に到着した。」）

② メキシコのスペイン語では現在完了のアスペクト的意味が完了的ではなく、現在まで反復もしくは継続した行為を表す。

（表 1）に示すように、Lope Blanch は単純過去と現在完了それぞれに 2 つのアスペクト的特徴を設定しているが、これには議論の余地があるだろう。Lope Blanch によると、a) perfectivo は動詞の行為が完結したものとして示される場合、b) puntual は点的、個別的、単一的な行為を表す場合とされる。しかしそれぞれの価値の用例をみる限り[6]、その差異は明瞭とは言いがたい。こうした差異は、動詞の語彙的なアスペクトや副詞類などの広い文脈によって生み出されるものであり、時制形式そのもののアスペクト特徴としては区別する必要はないのではないか。同様に現在完了の a) durativo と b) reiterativo の区別[7] も、動詞の語彙的アスペクトや副詞類などに依存しており、時制形式自体のアスペクト特徴としては区別する必要はないと思われる。

メキシコスペイン語の現在完了に imperfectivo というアスペクト特徴を付与し、スペインの現在完了とは基本的価値が異なるとすることには議論の余地があるだろう[8]。しかしながら、実際の使用レベルでは durativo や reiterativo の意味で使われることが多いことは事実である。Lope Blanch（ibid.: 383-384）は、現代のメキシコスペイン語の状況（単純過去は現在までに完結した行為全般に用いられ、現在完了は継続的・反復的行為にほぼ限定されていること）について、この状況は中世や前ルネッサンス期にみられた 2 形式の区別に非常に近いと述べている。そして、メキシコのスペイン語はこうした段階を起源として、その後、半島スペイン語とは異なる発展をしてきたと考えている[9]。

実際、現在完了はどのような発展段階の時にアメリカ大陸に移殖されたのだろうか。次で考察してみたい。

Ⅳ. 2. Company（1983）による中世スペイン語（12～15世紀）の観察

まず、移殖期以前の状況を確認しておこう。Company（1983: 254-257）は12～15世紀の文学作品における現在完了を調査している。その際、（表2）のように5つの用法に分類している。このうち頻度上主要な用法であり、本稿の調査とも関連する2つの用法の規定をみてみよう。

一つは「valor de pretérito abierto（開いた過去の価値）」である。これは「動詞の表す行為は過去に始まるが、発話時点において（場合によっては未来においても）開かれた状態で続いている」[10] 場合とされる。これは「現在までの継続・反復」の用法にあたると考えられる。

もう一つは「valor de pretérito anterior al presente（現在以前の過去の価値）」である。これは「動詞の表す行為は過去に始まり過去に終わる。ただしこの過去とは、行為の限界点を示しつつ、発話時点と隣接している」[11] 場合である。現在までに終わった出来事を表す場合、つまり、完了的な用法と考えられる。（表2）におけるこの「現在以前の過去の価値」の頻度をみると、時代を通じて5割以上を占めている。前述のLope Blanchの仮説によると、中世の現在完了はimperfectivoの用法が支配的であるはずだが、Companyの観察ではそうした状況はみられない。

Companyの調査対象は韻文や散文を含む文学作品であり、様々な文体的要因が時制使用に影響している可能性もある。では、植民地時代初期、一般の人々が書いた書簡ではどのような状況だったのだろうか。次節では本稿と同様、ヌエバ・エスパーニャとやり取りされた文書を対象とした先行研究を確認する。

Ⅳ.3. ヌエバ・エスパーニャとやり取りされた文書における現在完了

Ⅳ. 3.（1）. Lope Blanch（1970）

Lope Blanch（1970）は、Diego de Ordazという人物が1529年から1530年

（表 2）

		valor de pretérito abierto	valor de pretérito anterior al presente	valor de pasado pero no en ámbito de presente	valor de mandato	valor de pasado anterior a otro tiempo pasado
s. XII	*Poema de mio Çid*	34%	51%	13%	1%	1%
s. XIII	*Crónica general*	35%	59%	6%	0%	0%
s. XIV	*Libro del cavallero Zifar*	35%	60%	5%	0%	0%
	Libro de buen amor	30%	66%	4%	0%	0%
s. XV	*Corbacho*	36%	63%	1%	0%	0%
	La Celestina	34%	63%	0%	0%	0%

にかけてメキシコ市在住の甥に宛てて書いた 7 通の手紙を分析している。その結果、現在完了と単純過去の間には使用上の混乱もあると指摘している（ibid.: 42-43）。

例えば 2 時制形式が共起し、区別がとらえがたい例として次のようなものをあげている。

Y *hanle hecho* marqués i *tomó* título del Valle（105, 25）「彼は侯爵の称号を与えられ、その土地の権利を得た」

las merçedes que su magestad le *a hecho*. Son que le *hizieron* merçedes de ...（105, 13）「陛下が彼に施されたご恩恵は、彼に…という恩恵が施されたということです」

しかしながら、多くの場合 2 形式の間にはかなり明瞭な区別がみられるとし、現在完了の用例を次のように分類している。

1） Acción reiterada o habitual （反復的・習慣的行為）

Y después acá *emos reçebido* dos cartas de Guzmán（120, 36）「そしてその後今までにグスマンから 2 通の手紙を受け取りました」

2） Acción perfecta en una época actual, en que se incluye el *ahora* （「今」が含まれる現在の時間枠の中での完了的な行為）

E tenido necesidad ... de vender el juro, i *e andado* rodeando por no lo vender（334,

36)「私は永代所有権を売る必要に迫られたが、それを売らないですむようにあちこち奔走した」

3) Acción anterior que se prolonga hasta el presente (imperfecta) o cuyas consecuencias duran todavía（現在まで続く、以前の行為。あるいはその結果がなお続いている場合）

i esto me *a cavsado* la inchazón de las piernas (104, 9)「そして、このために両脚が腫れ上がってしまっている」

4) En oraciones negativas（否定文で）

que a más de seis meses que no *a llovido* (127, 23)「というのも、6か月以上雨が降っていないので」

以上の観察をまとめると、Diego de Ordaz の手紙では、2形式の差異が不明瞭な例もあるものの、多くの場合区別が読み取れる。単純過去は過去の中で完結した事象を表し、現在完了は継続的・反復的・習慣的な事象を表している。この限りでは現代メキシコスペイン語の状況と類似している。ただし相違点も見出せる。それは、上述2）の完了的用法に関してである。Ordaz の手紙では、現在完了が完了的な行為を表すこともでき、この意味では単純過去よりも好んで用いられているという点である。Ⅳ. 1. で紹介した Lope Blanch (1961) の論考では、メキシコスペイン語の起源であるこの時代のスペイン語の現在完了は、継続的・反復的行為を表すのが普通とされていたが、実例をみる限りそうした明らかな偏向はとらえにくい。

Ⅳ. 3. (2). Acevedo (2000: 137-150)

Acevedo (2000) は16世紀から19世紀までのメキシコのスペイン語における現在完了の使用の推移を追っている。本稿と同じ *DLNE* の文書集を用い、Lope Blanch (1970) にほぼ対応する方法で用例を分類している。各用法の頻度の推移は（表3）のようになっている。各用法の定義と、本稿が扱う時代と一致する16世紀の用例を確認しておこう。

(表 3)

	Valor pasado	Valor presente			
	Puntual (%)		Durativa (%)	Repetida (%)	Negativa (%)
16 世紀	33	67	32	24	11
17 世紀	32	68	21	21	26
18 世紀	26	74	24	37	13
19 世紀	17	83	46	23	14

Acevedo (ibid.: 148)

Valor presente (現在の価値)

・Durativa (継続的行為)

y *después que* a estos (sic) valle vine, *he sabido* de algunos vezinos de la villa (1535, 109)「この谷に来てからその町の住民の数人から聞いて知っている」

como *siempre* lo *he hecho* y a tiempo (1535, 110)「いつも、そしてよい時機にそれをおこなってきた」

・Repetida (反復的行為)

como *muchas bezes ha estado* a punto de perderse (1525, 26)「何度も破滅しそうになった」

・Negativa (過去において否定されているが、実現する可能性がある事象)

y dellos hasta agora *no e cobrado* blanca (1568, 155)「しかし彼らから今まで 1 ブランカももらっていない」

y *nunca é visto* respuesta (1572, 172)「しかし一度も返事の手紙を見たことがない」

Valor pasado (過去の価値)

・Puntual (点的な事象)

Ha reçibido de Pero Gallego un plumaje muy rico「ペロ・ガリェーゴからとても高価な羽毛を受け取った」

Más, *recibió* de Francisco de Herrera unos paños para cama「さらに、フランシス

コ・デ・エレーラから寝具用の布を受け取った」

Más, *reçibio* del dicho Alvarado un cuero lleno de vino（1529, 89）「さらに、件のアルバラードからワインを満たした革袋を受け取った」

ここでは、上述の Lope Blanch（1970）における「2）完了的用法」に相当するとみられる puntual の用法の推移に注目する。

Acevedo によると、16 世紀前半には、過去の事象を表す際に現在完了と単純過去が区別なく使われることがあり、同じ文書内にそうした混乱がみられることがあるという。この指摘は Lope Blanch（1970）の観察とも一致している。上掲の puntual の用例はそうした混乱の例とされている。これらの例では、recibir「受け取る」という動詞について、同じ文書内で両方の時制形式が用いられ、いずれも一回性の終わった出来事を表している。

17 世紀になると、こうした puntual な現在完了の用例には relevancia presente「現在とのつながり」が一層はっきり現れるようになる。18 世紀になると、明らかな relevancia presente がない限りこの用法には単純過去が好まれるようになる。（表 3）でも、puntual の割合は時代が進むにつれて減少している。この用法の現在完了は、現在とのつながりを強調する場合に使用が限定されていったようだ。Ⅳ. 1. でとりあげた Lope Blanch（1961）は、現代メキシコスペイン語の現在完了において “perfectivo” は二次的な価値に過ぎず、感嘆文など感情的卓越を表す場合にしか使われないとしている。Acevedo が観察している推移は現代メキシコスペイン語のこうした状況につながっていくものと考えられる。

Ⅴ　本稿での調査結果――現在完了の用法別頻度

以上のような先行研究を踏まえ、本稿で対象とした文書での現在完了の使用状況をみてみよう。ここでは、割合を比較する目的から、Acevedo の分類法をとりいれて用例を分類した。各用法の頻度と割合を示したのが（表 4）である。

Acevedo の調査結果（表 3）の 16 世紀の数値と比較してみると、本稿の調

(表 4)

Siglo XVI	Valor pasado	Valor presente			
	Puntual (%)		Durativa (%)	Repetida (%)	Negativa (%)
私的書簡	**50 (34.5)**	**95 (65.5)**	41 (28.3)	20 (13.8)	34 (23.4)
公的書簡	**57 (22.1)**	**201 (77.9)**	83 (32.2)	96 (37.2)	22 (8.5)
合計	**107 (26.6)**	**296 (73.4)**	124 (30.8)	116 (28.8)	56 (13.9)

査では、私的な書簡の方が Acevedo の結果と近い。Puntual の用法が 3 割台、残りの Valor presente の合計が 6 割台である。公的文書では Puntual の用法の割合が 2 割台にとどまっている。

1) Puntual

この用法は、一回性の完了的な事象を表す場合である。

私的文書の例(16)では、Acevedo による puntual の用例にもあった recibir「受け取る」が使われている。同じ動詞が単純過去でも現れているが、区別は読み取れる。現在完了の方は「喜び」が直接補語であり、現在までの効力が感じられるのに対し、単純過去の方は「手紙を受け取った」という過去の出来事を単に述べているだけで現在までの効力は感じられない。

一方、(17)でも現在完了 (Eme holgado) と単純過去 (pesó) が共起しているが、今度はどちらも感情を表す動詞である。両者とも効力は続いていると言え、区別はあまり明瞭ではない。

(18)では「雨が降り始めた」ことを現在完了が表している。完了的な出来事と言える。

公的書簡の例(19)は mandar「命ずる」が現在完了をとっている。時間表現 agora と共起し、直前に起こった出来事を述べている。

(20)では動詞 venir「来る、届く」を用い、「知らせが耳に入った」という完了的な出来事を表している。

(16) Yo *e bisto* la carta que v. m. me ynbió de mj hermano Diego Hortiz, y *e rrescibido* tanta alegria con ella que no lo puedo encareçer; especialmente siendo la primera que dél *rresçibi.* * (DLNE 33: 154)

「あなたが送ってくださった、兄ディエゴ・オルティスからの手紙を見ました。私は大変うれしかったので、どう表現すべきか分かりません。とりわけ、それは私が彼から受け取った最初の手紙でしたので。」

(17) *Eme holgado* mucho con su salud, aunque me *pesó* de sus trabaxos. ＊(DLNE 33: 154)

「あなたが元気だと聞いて大変うれしく思いました。もっとも、あなたの苦労には心が痛みましたが。」

(18) Toda Espagña está para perderse, que a más de seis meses que no a llovido. I estando escriviendo ésta, *a començado* a llover, i muy bien, que era la cosa que más se deseava. (...) ＊(DHLHA 2: 88)

「スペイン全土が荒廃しつつあります。というのも、6か月以上雨が降っていないからです。ただ、これを書いている途中で雨が降り始めました。とてもよかったです。最も待ち望まれたことでしたから。」

(19) Fueron presos y persegujdos y rretraydos otros muchos que no los avian cometydo, syno que heran amjgos del fator y veedor, los quales agora *han mandado* soltar syn pena. (DLNE 3: 52)

「それら（罪）を犯していなかった他の多くの人たちが単に factor と veedor の友人というだけで投獄され、迫害され、退けられました。もっとも、今になって彼らを罰せずに解放するよう命令が下りました。」

(20) Ansimismo sepa Vuestra Alteza que a mi notiçia *a venido* que los ofiçiales de Vuestra Alteza se an quexado de mí en la Real Avdiencia (...) (EM: N 487)

「同様に殿下にお知らせしたいのは、王立聴訴院で殿下の官吏たちが私について不平を言っていることが私の耳に入ったということです。」

2) Durativa

この用法は、事象もしくはその結果が継続している場合である。

私的文書の例(21)では、vivir「住む」が現在完了をとり、de dos años a esta parte「2年前から今まで」という期間の明示とともに行為の継続を表している。

公的書簡の例(22)では、現在完了と現在形が並んで現れて、過去から現在

に至る継続を表している。こうした継続の意味での現在完了と現在形の共起例は今回調査した文書によくみられ、いわば定型表現のように使われている。

(21)　e yo *e bivio* en Mexico syno es de dos años a esta parte. ＊(DLNE 38: 167)
「私は2年前から今までメキシコに住んでいます。」

(22)　y sepa Vuestra Alteza que demás de mis trabajos *e pasado* y paso muy estrecha neçesidad (EM: N 484)
「そして殿下にご理解いただきたいのは、私の苦難に加えて、大変厳しい窮乏に苦しんできたということ、そして今も苦しんでいるということです。」

3)　Repetida

この用法は、事象が現在まで複数回反復している場合である。

私的書簡の例(23)は、2通の手紙について述べており、escribir「書く」やllegar「届く」という事象は複数回と言える。

公的書簡の例(24)は、muchas vezes「何度も」という表現によってplaticar「話す」行為の反復性が分かる。

(23)　dende que llegué a esta tierra le *escrito* dos cartas y no sé si *an llegado* a su poder, ＊(DLNE 33: 154)
「私はこの土地に到着して以来、彼に2通の手紙を書きましたが、彼の手に届いたかどうか分かりません。」

(24)　sería muy neçesario hazer una çerca, que aca *hemos platicado* muchas vezes que es neçesaria y no se ha hecho. (DLNE 1: 45)
「柵を作る必要が大いにあるでしょう。それが必要であると私たちは何度も話してきましたが、作られていません。」

4)　Negativa

この用法は否定された状態が現在まで継続している場合である。

私的書簡の例(25)は否定状態の開始点がDespues que「…以来」の節で示されている。

公的書簡の例(26)では否定状態の限界点が hasta oy「今日まで」によって示されている。

(25)　Despues que vjne a esta tierra, nunca *he visto* a mi tio Luis Martjn —— que á ya más de un año —— nj carta suya, ＊(DLNE 39: 169)

「この土地に来て以来、私のおじルイス・マルティンに一度も会っていません——もう1年以上になりますが——それに、彼の手紙も見ていません。」

(26)　porque aunque dí d'ello relaçión en la Real Abdiencia no *a abido* castigo hasta oy, (EM: N 484)

「なぜなら、そのことを私は王立聴訴院で報告しましたが、今日まで罰が下されていないからです。」

Ⅵ　結び

まず、Lope Blanch や Acevedo が指摘する2時制形式の使用上の混乱について、今回の調査をもとに検討してみよう。確かに、Puntual（完了的）用法では、例(17)のように2形式の区別が不明瞭な場合がある。しかしながら多くの場合、文脈から意味の違いをとらえることができる。つまり、現在完了は「現在とのつながり」という点で単純過去と区別を保った上で完了的用法を発達させていたのではないだろうか。では、この時代の現在完了は、どういった発展段階に位置付けられるのだろうか。

Acevedo（ibid.: 149-150）によると、移殖期直前（15世紀末）の時点では、現在完了のいわゆる完了的用法は、イベリア半島ではまだ革新的な用法であったと考えられている。アメリカに渡った最初の移住者たちの間にはまだあまり普及していなかった。

確かに、今回調べた文書でも完了的用法の割合はそれほど大きくない。しかしながら、かといって現代メキシコスペイン語のように明瞭には継続・反復的用法に特化している様子も見られない。これは、完了的用法がその後さらに普及するかどうかの過渡期だったためと考えられる。

なぜこの完了的用法はその後数世紀にわたって、少数派とはいえ一定割合

維持されたのか。その理由として Acevedo があげているのは、最初の副王領としての社会的・政治的状況である。本国からの教養語・文語の影響、本国のスペイン語話者との絶え間ない交流が当時の文書のスペイン語に反映している可能性がある。中央からの標準化の力（estandarización monocéntrica）が、ヌエバ・エスパーニャ副王領に強い影響を及ぼしていた。もっとも、最終的にこの半島スペイン語的な完了用法はメキシコでは一般化しなかった。こう考えると、現代メキシコのスペイン語の 2 形式の使い分けは、古い段階が変わらず保存されたものというよりは、現在完了が発達させつつあった完了的用法が（スペインとは逆に）次第に減少し、単純過去が優位になっていった結果である可能性が考えられよう。

Acevedo や Quesada Pacheco（2001）も指摘するように、メキシコのスペイン語は 2 形式の区別にアスペクト的基準を優先してきた。単純過去は puntual y perfecto「点的・完了的」、現在完了は acción imperfecta, durativa o repetida「未完了的・継続的・反復的」という区別である。本稿で対象とした文書ではまだはっきりとした特化はみられないが、確かに現在完了については、すでに未完了的用法の方が完了的用法よりも多くなっている。おそらく時代が進むにつれ、Acevedo の調査結果にもあるように、現在完了の完了的用法は減少し、まれであるがゆえに強調あるいは現在とのつながりをことさらに示すようになっていくと考えられる。

(1)　本稿は SELE2006（2006 年 8 月 8 日，於 琵琶湖湖畔 白浜荘）においておこなった口頭発表の原稿をもとに加筆・修正したものである。発表の際貴重なご意見、コメントをくださった参加者の皆様に謝意を表したい。

(2)　「拡張された現在」とは、過去のある時点と、話したり書いたりしている「今」を結ぶ時間枠をさす［Alarcos（1980[3]: 28-29）］。

(3)　DLNE は文書集の略号（末尾の用例出典を参照のこと）、数字はその文書の番号を示す。

(4)　用例の最後の括弧内は出典を示す（文書集略号 文書番号：ページの順）。括弧の前に＊を付したのが私的文書、付していないのが公的文書である。

(5)　同様の観点から伝達動詞の時制に注目した研究に Thibault（2000）、Eberenz（2002）

などがある。Thibault（2000: 193-196）は、15、16 世紀の戯曲や対話形式の作品を対象に、Eberenz（2002）は中世の年代記などを対象に 2 時制形式の使用状況を分析している。

(6) 例：a) ¡Al fin! ¡*Ya* lo *acabé*!「ついに、私はそれを終えた！」

b) Eso ya lo *discutimos* ayer.「それを私たちは昨日すでに議論した。」

(7) 例：a) Desde entonces sólo *he sido* una carga para ti.「その時以来私は君にとって単なる重荷でしかない。」

b) Eso lo *hemos discutido* muchas veces.「それを私たちは何度も議論した。」

(8) スペインとメキシコのスペイン語の現在完了の基本的価値は同じであるとする論考もある［寺﨑（1979), Cartagena（1999: 2950)］。

(9) Lope Blanch（ibid.: 383-384）:

"(...) en México no se emplea la forma compuesta para expresar las acciones verificadas en el antepresente, en el 'presente ampliado', sino siempre la forma simple (...). Por otra parte, el significado aspectual del pretérito compuesto no es, en México, el perfectivo, sino el de acción reiterada o continuada que llega hasta el presente, (...), estas peculiaridades del uso mexicano, tan distinto del castellano actual, están muy próximas a las formas castellanas medievales y prerrenacentistas, (...)"

(10) "la acción verbal se inicia en el pasado pero continúa abierta en el momento del habla y en algunos casos puede perdurar en el futuro". Company（ibid.: 254）

(11) "la acción verbal se inicia y se concluye en el pasado, pero este pasado, que marca el límite de la acción, está próximo al momento del habla". Company（ibid.: 254）

用例出典

EM：Arias Álvarez, Beatriz（1997）*El español de México en el siglo XVI (Estudio filológico de quince documentos)*, México, UNAM.

DLNE：Company Company, Concepción（compiladora）（1994）*Documentos lingüísticos de la Nueva España. Altiplano central,* México, UNAM.

DHLHA：Fontanella de Weinberg, M.ª Beatriz（compiladora）（1993）*Documentos para la historia lingüística de Hispanoamérica. Siglos XVI a XVIII*, Madrid, Boletín de la Real Academia Española, Anejo LIII.

参考文献

Acevedo, Rebeca (2000) *El español mexicano durante la colonia. El paradigma verbal en el altiplano central*, Guadalajara, Universidad de Guadalajara.

Alarcos Llorach, Emilio (1980) *Estudios de gramática funcional del español*, 3.ª ed., Madrid, Gredos.

Arias Álvarez, Beatriz (1997) *El español de México en el siglo XVI (Estudio filológico de quince documentos)*, México, UNAM.

Cartagena, Nelson (1999) "Los tiempos compuestos", Bosque, I. & Demonte, V. (dirs.) *Gramática descriptiva de la lengua española*, 2, Madrid, Espasa Calpe, pp.2935-2975.

Company Company, Concepción (1983) "Sintaxis y valores de los tiempos compuestos en el español medieval", *Nueva Revista de Filología Hispánica*, 32, pp.235-257.

Eberenz, Rolf (2002) "«Como avemos dicho / diximos de suso...»: los perfectos simple y compuesto en la referencia metadiscursiva del español medio", Echenique Elizondo, Mª Teresa & Sánchez Méndez, Juan (eds.), *Actas del V Congreso Internacional de Historia de la Lengua Española*, I, Madrid, Gredos.

Lope Blanch, Juan M. (1961) "Sobre el uso del pretérito en el español de México", *Studia Philologica. Homenaje a Dámaso Alonso*, II, Madrid, pp.373-385.

———— (1970) "Observaciones sobre el uso del verbo en Diego de Ordaz", *Anuario de Letras*, VIII, UNAM, pp. 39-55.

Quesada Pacheco, Miguel Ángel (2001) "El sistema verbal del español de América: de la temporalidad a la aspectualidad", *Español Actual*, 75, pp. 5-26.

鈴木恵美子 (2004)『スペイン語の単純過去形と現在完了形の通時的研究』博士論文、東京外国語大学。

寺﨑英樹 (1979)「メキシコ・スペイン語の完了について」、『人文研究』、59、小樽商科大学、pp.133-149。

Thibault, André (2000) *Perfecto simple y perfecto compuesto en español preclásico. Estudio de los perfectos de indicativo en «La Celestina», el «Teatro» de Encina y el «Diálogo de la lengua»*, Tübingen, Niemeyer.

（資料１）　私的書簡

宛て先	年	タイトル	単純過去	現在完了	合計
sobrino (vos)	1529	MX1.Carta de Diego de Ordaz, capitán del ejército de Hernán Cortés a su sobrino Francisco Verdugo, residente en la Ciudad de México.	25	16	41
sobrino (vos)	1529	MX2.Carta de Diego de Ordaz, capitán del ejército de Hernán Cortés a su sobrino Francisco Verdugo, residente en la Ciudad de México.	74	44	118
Antonio de Godoy, criado suyo (vos)	1529	DLNE5: Carta de Nuño de Guzmán a Antonio Godoy, criado suyo, sobre la prisión de un calzonzin. Despedida y firma autógrafas.	4	1	5
Nuño de Guzmán (vuestra merçed)	1529	DLNE6: Carta autógrafa de Antonio Godoy respondiendo a las instrucciones que Nuño de Guzmán le había dado en una carta.	0	1	1
hijo (vos)	1567	DLNE32: Carta autógrafa de Gonzalo Román pidiendo a su hijo lo venga a recoger a México.	1	3	4
esposa (v. m.)	1568	DLNE33: Carta autógrafa de Juan López de Sande a su esposa.	26	30	56
pariente (vos)	1571	DLNE38: Carta autógrafa de Luis Martín invitando a un pariente a viajar a Nueva España.	15	4	19
hermano (Vd.)	1572	DLNE39: Carta autógrafa de fray Andrés de Arroyo a su hermano, dándole consejos sobre qué hacer en caso de que viniera a la Nueva España.	2	2	4
hermana (Vd.)	1572	DLNE40: Carta autógrafa de Juana Bautista a su hermana, preguntando por los parientes que estaban por viajar a la Nueva España.	14	8	22
Alonso y Cristóbal García (vuestra merçed)	1572	DLNE41: Carta autógrafa de Juan López Tavera a Alonso y Cristóbal García, invitándolos a reunirse con él en la Nueva España.	2	4	6
sobrino (v. m.)	1573	DLNE42: Carta autógrafa de Alonso López de Alanda a su sobrino Antonio de Ampudia en la ciudad de Sevilla.	4	1	5
hermana (vos)	1574	DLNE43: Segunda carta autógrafa de Juana Bautista invitando a su hermana a venir a la Nueva España.	12	4	16
esposa (bos)	1574	DLNE44: Carta autógrafa de Alonso Ortiz pidiendo a su esposa que se reúna con él.	3	2	5
esposa (vos)	hacia 1574	DLNE45: Segunda carta autógrafa de Alonso Ortiz a su esposa.	11	2	13
cuñado (v. merçed)	1574	DLNE46: Carta autógrafa del deán de Tlaxcala invitando a su cuñado para que deje venir a su hijo a la Nueva España a hacerse sacerdote, en caso de que tenga vocación.	5	2	7
gente de su confianza (v. merçed)	1574	DLNE48: Carta autógrafa de Alonso Montaño, encomendando a gente su confianza la resolución de un conflicto familiar por herencia de bienes.	20	9	29
sobrino (vos)	1575	DLNE49: Carta autógrafa de Francisco de Sosa invitando a su sobrino a venir a la Nueva España.	3	2	5
esposa (vos)	1575 (Puebla)	DLNE50: Carta autógrafa de Jerónimo Rodríguez, emigrado a la Nueva España, invitando a su esposa a reunirse con él.	1	0	1
hermano (vos)	1577	DLNE64: Carta autógrafa de Alonso de Alcocer a su hermano Juan de Colonia, invitándolo a la Nueva España a vivir con él.	6	1	7
hermano (vos)	1578	DLNE69: Carta en la que Francisca Pérez, por mano de su hijo, pide a su hermano los venga a recoger a la Nueva España.	4	2	6
madre (b. m.)	1578	DLNE70: Carta que Cristóbal Vicente, por mano de otra persona, escribe a su madre.	11	7	18
padre (v. md.)	1578	DLNE71: Carta en la que Alonso de Salazar reclama a su padre su falta de atención y agradecimiento.	8	1	9
hermano (v. m.)	1585	DLNE78: Carta autógrafa de Diego González a su hermano pidiéndole se reúna con él en la Nueva España.	3	1	4
			254	147	401
			63.30%	36.70%	

（資料２）　公的書簡

宛て先	年	タイトル	単純過去	現在完了	合計
emperador Carlos V（vuestra［çesárea］magestad）	1525	DLNE1: Carta autógrafa de Rodrigo de Albornoz al emperador Carlos V, proponiendo mejores formas de gobierno y soluciones a distintos problemas en la Nueva España.	122	83	205
emperador Carlos V（vuestra［sacra］magestad）	1526	DLNE2: Carta autógrafa de Alonso de Estrada al emperador Carlos V en defensa de Hernán Cortés.	7	8	15
Consejo de Indias（vs. ms.）	1526	DLNE3: Carta autógrafa del escribano Diego de Ocaña al Consejo de Indias contra Hernán Cortés y los oficiales que le eran fieles.	203	18	221
Consejo de Indias（vs. mercedes）	1526	DLNE4: Segunda carta autógrafa de Diego de Ocaña contra Hernán Cortés, dirigida a los señores del Consejo de Indias.	60	10	70
emperatriz（vuestra magestad）	1531	DLNE11: Carta de fray Luis de Fuensalida a la emperatriz agradeciendo mercedes y solicitando limosnas. Despedida y rúbrica del fraile.	4	5	9
autoridades（Vuestra Alteza）	1553	Documento N: Primera carta de Diego Ramírez dirigida a las autoridades en la que habla sobre los abusos de los encomenderos y de los problemas que ha tenido con ellos.	127	108	235
autoridades（Vuestra Alteza）	1554	Documento Ñ: Segunda carta de Diego Ramírez dirigida a las autoridades.	13	3	16
padre provincial（Vuestra Reverencia）	1585	MX5. Carta annua del P. Francisco Ramírez, de la Compañía de Jesús, al padre provincial（1585）.	134	24	158
			670	259	929
			72.10%	27.90%	

＊宛て先の次の（　）は書き手が宛て名人を呼ぶ際の待遇表現。
＊出典略号
DLNE: Company Company（1994）
Documentos N y Ñ: Arias Álvarez（1997）
MX: Fontanella de Weinberg（1993）